

西洋史Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業目標（達成目標）の1～3の達成度で成績評価を行う。C（合格）となるためには、

- ・世界情勢に関する一定のヴィジョンを示せる。
- ・そのヴィジョンを構成する歴史的な背景を因果的に説明できる。
- ・研究史上の重要な所論、専門用語が大過なく理解できる。

上記の3点を達成することが求められる。成績を評価する手段として、授業への参加度と期末試験を用いる。成績評価に占める比重は、参加度が20%、期末試験が80%とする。

[教科書]

使用しない

授業中に参考資料を配布する。参考文献についても随時指示する。

[参考書等]

（参考書）

ハインツ・シュタイナート『マックス・ヴェーバーに構造的欠陥はあるのか 論破しがたいテーゼ』（ミネルヴァ書房、2021年）ISBN:978-4-623-09207-9（教科書指定はしませんが、参照を促す機会が何度かあると思います。）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の指示された箇所を読んでおくこと。授業中に紹介する参考文献を適宜あわせて読むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

メールアドレス：f21244t@omu.ac.jp